

---

# 『竜滅士 ドラゴンバスター』

想隆 泰氣

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

『竜滅士 ドラゴンバスター』

### 【Z-コード】

Z1001Z

### 【作者名】

想隆 泰氣

### 【あらすじ】

聞こえぬはずの獣の嘶きに苛まれる少女。

心も体も浸食され、日常すらも失われようとした時、少女は一人の少年に出会う。

果たして少年は何者なのか。そして脳裏に木霊する獣の声は何なのか。

何も分からぬままに、少女は日常の外側へ足を踏み入れる

# 竜滅士 ドラゴンバスター【1】

【1】

グルルルル……

……と。

獣のような低いうなり声が、少女には聞こえていた。  
それがいつからだつたのか、彼女には分からぬ。  
だが、気づいた時にはもう、誤魔化しように現実感を持つた  
音として、それは彼女の脳内に木霊していた。

グルルルル……

怒氣を含んだような、憎悪を感じさせるような、ぐぐもったうな  
り。どこからともなく聞こえてくる声。

それは日増しに大きくなつて、少女の心と体を浸食していく。脳  
内に響く轟きは頭痛を誘発し、体を重くした。

それでも少女の日常は、変わることなく進んでいく。

朝がくれば起きて、顔を洗い、慌ただしく食事をして、学校へ行  
く。

痛む頭蓋と重い体を引き摺りながらも、少女はまだ日常の中にな  
つた。

だが、既に体の不調は到底誤魔化せるようなものではなくなつて  
いた。視界は狭くなり、眼は霞み、五感は鈍い。

だから、その接近に彼女は気づかなかつた。

ドンッ

と、衝撃が走った。

「きや……ー?」

ふいなことに、少女は為す術もなく道の真ん中で尻餅を突いた。

「いたた……もー……なーにー……?」

何が起きたのかも分からぬまま、少女は眼前を見上げようとした。

だが、頭痛が酷くて思うように顔が上げられない。

「つっ……」

思わず呻いて、頭を抱えた。

そんな時だった。

「……大丈夫ですか、お姉さん」  
優しい、穏やかな声がした。

何とか顔を上げると、そこには一人の少年が立っていた。  
浅黒い肌に黒い短髪。声と同様に、穏やかな笑顔を浮かべる少年。  
おそらくは少女よりも一つ二つは年下。雰囲気から考えれば、少々  
小柄な中学生といったところだろうか。  
首から提げた、小さな竹筒の連なったアクセサリーが印象的だっ  
た。

ついでに言えば、転倒の原因は彼だったらしい。

「……立てますか?」

問われて、少女はハッとした。無意識ながら、ぼけっと見つめて  
しまっていた。

「あつ! は、はいつ!」

年上の威厳など欠片もない返事をして、少女は差し出されていた  
細い手を取った。

「いひ、ごめんなさいっ、ちょっとぼーっとしててつ……」

ようやく立ち上がった少女はあたふたと謝罪したが、少年は変わ

らぬ微笑みでゆるりと首を振った。

「いいえ。僕の方こそ、捜し物をしていたもので。『めんなさい、お姉さん』

そう言つて、ペロリとお辞儀をする少年。その仕草があまりに愛らしくて、少女は一時、体の不調も忘れ、少しだけ穏やかな気持ちになつて頬を染めた。

だが、その時だつた。

グルルル……

と。

また、あの重苦しい、ぐぐもつたうなり声が脳裏を木霊した。

「つうつ……！？」

思わず蹲る。

「 近い」

ぱつりと。少女の頭上で、そんな声がした。他でもない。少年の声だ。

「つ……？」

頭の痛みに顔を歪めながらも、少女は少年を見上げる。

彼は、何かを警戒するように、周囲をきょろきょろと見回していった。

が、ふいにハツとしたように眼を見開いて、少女を見た。

「 どうか、これは 」

しかしその言葉は、最後まで続かなかつた。

「 ！ いけないっ！」

少年はふいに焦つたような声を上げると、そのままの勢いで少女の体を押し倒した。

「 あやうんっ！？」

思わず、間抜けな声を漏らしてしまった少女。行動の突飛さと言つよりも、少年の顔に似合わぬ大胆な行動にどきりとしてしまう。だが次の瞬間、そんな少女の平和な感情を吹き飛ばすように、激しい轟音が辺りに鳴り響いた。

「つ……!? え!? な、なにつ!? なに」「とつ……ー?」

少年の体の下で、狼狽した声を上げる少女。

聞いたこともない、形容しがたい音だつた。硬質な何かを強引に破壊したような、激しいけれど鈍い音。轟音、としか表現できない音。

当然だ。何の変哲もない思春期の少女に、ブロック塀を派手に粉碎する音など聞いたことがあるはずもない。

一人が倒れ込む頭上。丁度、少女の上半身があつた辺り。その辺りにあつたはずのブロック塀が、何かの機械で抉り取つたようになくなつていた。

まるで、どら焼きを囁つた時の跡みたいだな、なんて少女は思つた。突然の出来事に、状況判断が追いついていなかつた。

否。こんな状況をいつたい誰が即座に理解できると言うのか。しかし、困惑する少女に、少年は覆い被さつたまま、追い打ちをするように言つた。

「僕が探していたのは お姉さんだったんですね」

そうして少女は、日常の外側に足を踏み入れた。  
アウター・フレン

【つづく】

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1001n/>

---

『竜滅士 ドラゴンバスター』

2010年10月15日21時10分発行